

理研会報

発行 印教研理科研究部 事務局 成田小学校 成田市幸町948-1

平成十一年度 県教研 参加報告

朝陽小学校 杉本 成昭

理科教育第一分會 (小学校)

では、討議の柱が三本設定され、その内容に沿って十一の提案がありました。今年度の討議の柱は、

(一) 子どもの興味・関心・意欲を高める理科教育、(二) 科学的な見方や考え方を養う理科学習

(三) 地域の自然を生かした理科学習、の三観点からで、特に

(三) については、印旛支部を含め、長生・夷隅・千葉・香取・東総の六支部と過半数を占める提案となりました。

前次教研集會に於いて総合的な学習を含めた新しい教科像をどう創造するかといった課題の中から環境に対する意識化に眼を向けられたこと、また、教課審査申中、

「自然体験や日常生活との関連を図った学習及び自然環境と人間との関わりなどを一層重視する」は新規事項であり、指導方法に大いに関係する指摘であることを考慮してか、「地域自然」をテーマに掲げた提案がその大勢であったことに起因するのかも知れません。

地域の自然を大々的に取り上げた長生・夷隅二支部の提案の概要を報告します。

長生支部の提案に於いては、「自然を見る見方を育てる方法」を研究内容の中核に、身近に見られる動物の活動や植物の成長を季節と関係付けながら調べ、追求する活動を学区にある谷津田に求めたものでした。この実践を通す中で生物の成長と環境との関わりについて見方や考え方を養うという仮説の検証がなされていました。

指導計画中に、谷津田での動植物探しを野外観察への導入として、森林インストラクターとのT・Tを設定し成果を上げた報告は興味深いものでした。

「地域の自然とふれあう理科学習」をテーマにした夷隅支部の提案からは、水辺や林に生息する生き物と自由にふれあえるネイチャースポットでの自然探検やフィールドワーク、ネイチャーセンター指導員との連携を図ること、身近な自然についての疑問を解決するといった地域の施設、人材の活用

の取り組みについての報告がなされました。

前述したように、今後の「自然体験や日常生活との関連を図った学習」が求められます。日常生活との関わりは、現在でも指摘されていることですが、「自然体験」をさせることは新しい指導指針であり、ここで指摘されている「自然体験」が、実験や観察、飼育栽培というような従来の体験を越えたものであることです。このことから提案されたような自然体験活動が地域の自然を生かした理科指導としてクローズアップされるのは必至だと考えます。

総合的な学習と理科学習には、学習内容面で相互に密接な関係が存在することを考慮して進めていく必要があります。総合的な学習に於ける学習方法については、自然体験、観察実験、調査、問題解決学習など、理科学習でもこれまでその重要性が強調されながら、実行が必ずしも伴わなかったものが挙げられています。従来の理科学習では、時間等の制約から、自然体験や見学、調査等は十分行われていませんでした。提案の中からインスパイアされたことは、この部分を総合的な学習がカバーし自然に関する体験が可能となれば理科学習の一層の充実化を図ることができ、総合的な学習と理科学習が相互補完的に働くことが期待できるということです。

千代田中学校 佐久間 香苗

県教研に参加しての感想

初めてのレポート提案で、県教研に参加させていただき、県教研に参加する際にはとても緊張しましたが、こんな機会があったにないと思つたので、多くのことを吸収して帰ろうと思ひました。

各分科会ごとに別れての提案発表では、いろいろな授業の取り組みが提案されました。千葉県内にはいろいろな学校があり、インターネットを活用して授業をやっている学校があったり、教科を展覧させて総合的な学習に向けての授業を計画している学校もありました。

また、学校周辺の自然を観察に行く学校や、学校内の草花の地図を作成している学校、また、本物のブタの内臓を触って調べたりなど本当にいろいろな授業のやり方があり感じました。

私の学校でも「これならやってみようかな」と思ったり、「この授業ならやったことがある」等感じることは様々でした。

私が発表した研究内容は四街道市の理科部会の先生方で協力して創りあげたものでした。

研究主題は「生きる力を育む理科学習はどうかあったらよいのか」環境学習の視点から」です。

研究内容は以下の通りです。

①年間指導計画の作成

②ショートプログラム(10分程度)の展開計画の整備と授業実践

度多くの先生と知り合うことができた。

活動を盛り込んだ授業の展開とても大切なと感じました。生徒のためにも、自分自身のためにも、もっと勉強が必要と感じました。

そして、私もそんな先生方の仲間入りをしたと感じました。

私自身、理科についてこんなに真剣に取り組んだ二日間はないように思います。生徒が理科のことを、自然のことをもっとよく知ってもらうために、そして理科が好きになつてくれるように理科の研究を続けていきたいと思っています。県教研に参加することができて大変勉強になりました。楽しく有意義な二日間でした。



—— 垣根佳未(仮記) ——

理研会報第二百七十四号をお届けいたします。今回は、「県教研参加報告」ということで二名の先生方の記事を載せました。

次号は「全国教研参加報告」と「私の教育実践」を掲載したいと思っています。

*投稿等につきましては、各研究部長にお尋ねください。

印教研 理科研究部事務局